29日　日曜

エペソ

6:1 子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。
6:2 「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴う第一の戒めです。
6:3 「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く」という約束です。
6:4 父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。
6:5 奴隷たちよ。キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。
6:6 ご機嫌取りのような、うわべだけの仕え方ではなく、キリストのしもべとして心から神のみこころを行い、
6:7 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。
6:8 奴隷であっても自由人であっても、良いことを行えば、それぞれ主からその報いを受けることを、あなたがたは知っています。
6:9 主人たちよ。あなたがたも奴隷に対して同じようにしなさい。脅すことはやめなさい。あなたがたは、彼らの主、またあなたがたの主が天におられ、主は人を差別さならないことを知っているのです。

父と母を敬うことは地上での幸せにつながるということです。尊敬できないと思えるような場合もあるかも知れませんが、それでも少しでも敬うことはできないだろうか…と信仰のチャレンジをすることも必要でしょう。

父親には「子どもをおこらせてはいけません」と、命令されています。親からすれば、自分が正しいと

Bible Reference 聖書の記述

の思いは強いでしょう。しかし、子どもがそれを受け止められないなら、いくら言っても無駄なのです。かえって心を閉ざすことになります。そのような心に関しては、子どもを育てた親に責任があります。親が悪いというのではなく、子どもの心が親に対して開かれるためには、親が何とかしなければならない責任を負っているということです。そのためには、子どもを怒らせたままでは、改善の可能性がなくなってしまうのです。

親が何を言っても聞かないとしても、信仰を育てることによって、主のみこころを行う人へと成長させるなら、希望があります。それは親だけではなく、教会の共同体によって可能性が生まれるでしょう。

奴隷と主人とは、全く立場の違う関係です。現代では雇用主と従業員のような関係でしょうか。立場が明確に上下の関係です。このパウロのことばから学び、仕事をするに当たっては主に仕える思いを持ちましょう。それをモットーとしましょう。また主のみこころを行って、差別のない愛のある上司となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？